

単元計画と指導構想（全12時間）

食べ物へんしんブックを作って、食べ物のひみつを友だちにしょうかいしよう。														
【第1次】（読む目的を明確にする段階）（第1～3時）			【第2次】（目的に応じた読む力を習得する段階）（第4～8時）				【第3次】（読む目的を達成する段階）（第9～12時）							
第1時（本時） 教師作成のモデルの表紙を提示したり、実際の食材が変化する所を見せたり、並行読書の本を読んだりすることですがたをかえる食材について興味をもち、食べ物へんしんブックを作るという意欲をもつ。 （食べ物へんしんブックの表紙）	→	第2～3時 教材文を読み、あらすじをとらえる。 すがたをかえる大豆の学習計画と食べ物へんしんブックを仕上げる計画を立てることで、ゴールを明確にし、見通しをもつ。	→	第4～5時 に豆ととうふの段落を読み、食材が食品に姿を変える手順を読み取り、手順カードを作る。 手順の中にある接続詞のはたらきを知り、活用する。	→	第6～7時 手順カードを使って食品の並び替えをし、教材文の第6段落を中心に、紹介されている食品の共通点を読み取る。 接続詞を読み、どのような順序で食品が紹介されているか読み取る。	→	第8時 教材文から文章構成を読み、はじめとおわりに書くことについて考え、話し合う。	→	第9～10時 モデルをもとに、手順の間に読点や接続詞を付け加えたり、一つの文にしたりすることを考えて手順カードに書き込む。	→	第11時 前時までに作成しておいた手順カードや、はじめ・おわりに書くメモを見ながら、自分が選んだ食べ物のへんしんブックを完成させる。	→	第12時 完成した食べ物へんしんブックをグループで読み合い、感想を書いて伝え合う。
		手順カードに自分が選んだ食材と食品を記入する。		変身する食品ごとに手順カードを作る。		前時までに書いた手順カードを使って、例示する食品の順序を考え、並び順のタイトルをつける。		はじめとおわりに書くことを別のカードに書きまとめる。						
並行読書（食べ物について書かれた本を読む）														

単元目標		本時目標	
○ 大豆がさまざまな食品に姿を変える手順や事例の順序をとらえながら「すがたをかえる大豆」を読むことができる。 (C 読むこと イ)		○ 食べ物が姿を変えることに興味をもち、「食べ物へんしんブック」を作りたいという意欲と見通しをもつことができる。	
○ 「食べ物へんしんブック」を作るという目的に応じて、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章を書くことができる。 (B 書くこと イ)		学習の展開 (1/12)	
単元について		主な学習活動と内容	
(1) 児童について		指導の留意点	
説明文「ありの行列」では、問いと答えの文章の構成に着目し、はじめ・中・おわりの構造を理解することができた。「気になる記号」では、身近な記号について調べ、記号の特徴で分類し、その共通点を考えながら中の構成の仕方を学んでいる。これにより、段落を意識しながら書くことについては理解したが、報告文のまとめの文に自分の考えを交えながら書くことは、十分に指導できていない。		1. 本時学習のめあてをつかむ。 (1) 本時学習のめあてをつかむ。	
(2) 単元構成について		めあて 単元のめあてをつくろう。	
第1次では、実際の食材が姿を変える所を見せる事で、「姿を変える」意味を体感的に理解させる。また、並行読書の本を読むことで、一つの食材が複数の食品に姿を変えていることを知り、他にも調べてみようという意欲を高め、見通しをもたせる。		(2) 題名読みをする。	
第2次では、手順や順序などを教材文から読み取り、島作りのカードを作成させる。その際、教材文から手順について学習する時には、自分の選んだ食べ物で島図を学習の終末で書くようにし、毎時間、へんしんブックを書くという意識が継続するようにする。		(3) 「すがたをかえる」の意味を知る。	
第3次では、並行読書により自分で選んだ食べ物の本について、食べ物へんしんブックを完成させる。		(4) トウモロコシがどんな食品に姿を変えているのか考える。	
(3) 指導について		2. 並行読書の本を読む。	
第1次で、実際の食品が姿を変える所を見たり、並行読書の本を読んだりすることで、意欲をもたせる。		(1) どんな食材がどんな食品に姿を変えているのかを読む。	
第2次では、教材文「すがたをかえる大豆」を食べ物へんしんブックの構成要素の視点に沿って読む。まず、手順を読み取り、島図で書いていくようにする。そして、自分が選んだ食べ物の手順を同じようにまとめる。その後、教材文から食品の並び順について考え、自分が選んだ食品の並び順や並び順のタイトルをつける。また、島図カードの欄外に接続詞を書き込むことで、接続詞を際立たせ、段落相互の関係に目を向けやすくする。		(2) どんな食材がどんな食品に姿を変えているのかを発表する。	
第3次では、島図カードに読点や接続詞を付け加えたり、一つの文にするとところを囲んだりすることで、中の文に書く材料をそろえさせる。そして、前時までの材料を用いながら書き、食べ物へんしんブックを完成させる。その後、友だちと書いたものを読み合い、感想をもらえるような場を設ける。		単元のめあて 食べ物へんしんブックを作って、食べ物のひみつを友だちにしょうかいしよう	
		3. 単元のめあてをたてる。	
		(1) 学習の見通しをもつ。	
		(2) 単元のめあてをつくる。	
		○ 教材文を紹介し、ゴール達成のために教材文を読む意欲をもたせる。	

↓

単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「食べ物へんしんブックで食べ物のひみつを友だちにしょうかいする」ことを位置付けた。

ここで取り上げる食べ物へんしんブックは、友達に紹介する目的で、どんな食材がどんな食品に姿を変えたのかを書きまとめたものである。

食べ物へんしんブックを作るために、食品を変身の手順や段落相互の関係を順序性に着目して取り出しながら読む必要がある。

したがって、食べ物へんしんブックを書くことで、指導事項「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」(C 読むこと イ)を確実に実現できるようにする。

単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「食べ物へんしんブックで食べ物のひみつを友だちにしょうかいする」ことを位置付けた。

ここで取り上げる食べ物へんしんブックは、友達に紹介する目的で、どんな食材がどんな食品に姿を変えたのかを書きまとめたものである。

食べ物へんしんブックを作るために、食品を変身の手順や段落相互の関係を順序性に着目して取り出しながら読む必要がある。

したがって、食べ物へんしんブックを書くことで、指導事項「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」(C読むことイ)を確実に実現できるようにする。